

会員防災士の活動



★ 放射線勉強会に参加して ★

中越地区 阿部正子（十日町市）

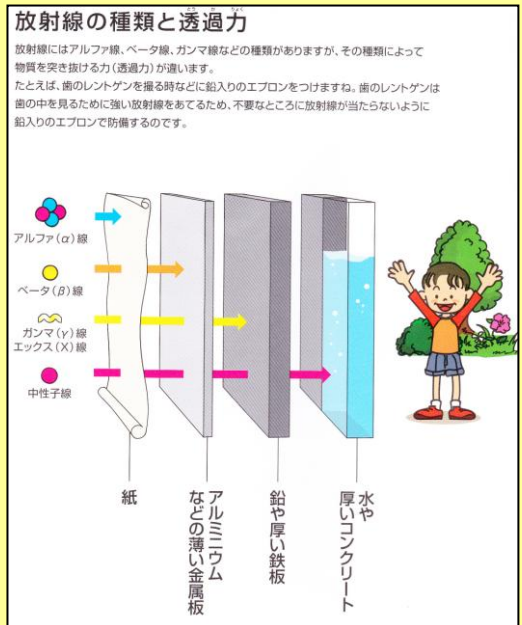
福島県での原子力発電所の事故以来、「放射線」「ベクレル」「シーベルト」といった単語が日常で使われるようになりました。私達の住む新潟県にも柏崎刈羽原子力発電所があります。事故は絶対に無いとはいえません。十日町市は、原発事故を想定し、原子力災害対策を新規につくることになりました。そこで、当地区に住む私達防災士も、「放射線」に関する知識を身につけようと、1月27日、行政開催の講演会に参加しました。

「放射線・放射線の基礎知識」という演題で、埼玉医科大学の飯塚裕幸先生より、講演していただきました。後日、この内容を平易にまとめてくれた尾身副支部長の資料を使い、NPOセーフティネットぼうさいとして、独自の勉強会を実施。意見交換をおこないました。

「ベクレル」は、「宴会場にある酒の量」、「シーベルト」は、「酒を飲んだ人の受ける影響」など、理解しやすいようにたとえをつかいました。

福島県での事故は異常事態の放射線ですが、人は、自然界から常に放射性物質を取り込んでいるとのこと。そして、ヒトの細胞は優秀でほとんどの場合、悪い変異をすることなく修復し、正常細胞になると知りました。放射線は浴びないほうがよいわけですが、過度に神経質になり、行動を制限しすぎることはないようにと教えられ、納得しました。

放射線には、種類があること。それによって、物質を突き抜ける力が異なること。「水」は放射線を遮へいすると知り、核燃料がプールの水に浸かっている理由がわかりました。これまでの風水害、雪害、地震災害に加えて、原子力災害という分野も必要になり、防災士として学ぶことが増えました。私にとって、未知の分野だったので、市民向けのこうした勉強会を開いていただき、ありがたく思いました。



国土交通省防災業務計画が改正されました！

国土交通省では、東日本大震災以降これまで2回にわたって、東日本大震災の教訓や課題、更に津波防災地域づくりに関する法律の制定等を踏まえて、国土交通省防災業務計画を改正してきました。このたび、平成24年9月の防災基本計画の修正等を受け、災害に対する即応力の強化など大規模広域災害への対策等を盛り込み、3月13日付で国土交通省防災業務計画を改正されました。

※ 改正された防災業務計画は、国土交通省のホームページよりご覧頂けます。

→ <http://www.mlit.go.jp/saigai/gyoumukeikaku.html>

編集後記

長い冬も終わり、山々の木々や草花が一斉に芽吹く季節となりました。ゴールデンウィークは肌寒い日も多かったですが、コゴメやウド・タラの芽などの山菜を楽しむことが出来ました。反面、原子力発電所事故の影響でそれらの山の幸が食べられなくなった地域も多くあると聞きます。災害は人々の生活だけでなく、その地域の伝統や文化も壊してしまう恐れがあると痛感しました。(か)



NBN

NPO 法人日本防災士会・新潟県支部会報 第8号

新潟防災ネットワーク

Niigata Bousai Network

「防災教育への協力」事例報告

NPO 法人日本防災士会・新潟県支部 支部長 別府 茂

さる 11 月 10 日魚沼市小出ボランティアセンターにおいて、新潟県魚沼地域振興局健康福祉部の主催による親子で学ぶ「防災と食」として「うおぬま地域食のふしぎはっけん・おやこジャングル」が開催され、NPO 法人日本防災士会・新潟県支部も共催しました。参加者は小学 3,4 年生の親子 30 名で、10 時から 13 時 50 分の間、防災士による防災ゲーム、サバイバル料理実習と続き、参加者全員で出来上がった料理を食べました。この防災教育には、尾身防災士とともに協力しましたが、日ごろの防災研修会に比べて若い参加者に大いに戸惑いました。今後もこのような防災教育は広がると思いますので、地域の身近な防災専門家として協力していきたいと考えております。

なお、当日使用しましたパワーポイント資料「地域の災害特性と防災 被災生活と食 あなたなら どうするゲーム」をご希望の方はお知らせください。



NPO 法人日本防災士会・新潟県支部 会員募集

NPO 法人日本防災士会・新潟県支部では、会員を募集しています。あなたの地域で防災士を取得されている方で、さらなるスキル UP を希望されていたり、新潟県内や全国の様々な情報を欲している方はいませんか？ 現在、県支部会員(平成 25 年 3 月末日現在)は、新潟地区 18 人 上越地区 10 人中越地区 35 人 下越地区 3 人 佐渡地区 32 人 合計 98 人になっています。新潟県自主防災コーディネーター登録者数は平成 24 年 4 月 1 日現在 151 名ということです

NPO 法人日本防災士会・新潟県支部では、防災活動に関する様々なニーズにお応えできる研修会や情報提供を行っております。入会を希望される方は、下記事務局までご連絡ください。

※NPO 法人日本防災士会・新潟県支部事務局

〒948-0003 新潟県十日町市本町 6-3 TEL : 025-752-7353 FAX : 025-750-3670

NPO セーフティネットぼうさい内 担当:尾身誠司 (E-mail:tbk119@jeans.ocn.ne.jp)



新潟県支部の活動

★ 「避難所運営について」 ★

新潟地区 伊原敏春（新潟市東区）

平成25年3月17日（日）新潟市総合福祉会館を会場に、県支部主催の研修会が開催され表題の研修を地域に展開していく方針と新潟市部会が基礎的研修をおこなうことが決定されました。

この原稿を書くにあたり、なぜ今「避難所運営」をテーマにするかということを考えて見ると、中越沖地震の時に旧西山町の避難所の支援に行ったのが原点になります。一泊二日の日程でしたが、そこで強く感じたのが、「避難者がお客様ではダメだ」ということでした。

被災前の日常の中では食事の配膳やトイレ掃除等を普通におこなっていたはずの人々が受身になっていた事実でした。もう一つは、平成23年度から防災士という立場で新潟市内の自治・町内会や地域コミュニティ協議会を対象にDIGを活用した研修を実施することで、自分達の地域の強み・弱みを知ることによって安心感と改善する方向・方法を考えてもらえたと思っていますが、そうした研修の中で避難所運営訓練に対する要望が結構な割合であったことが第2の理由になります。

HUG研修に参加することで、避難所はどういうものなのかを認識し、その環境の中で自身や家族の生活を維持するための運営方法等を参加者全員が考える研修を実施することは、大きな意味で人づくり・まちづくりに繋がることと思います。

地域づくりの観点から考えると、何らかの事情で在宅・車中・テント等を利用する被災者との連携も重要な検討課題となります。

《今後について》

今回の新潟県支部の方針を受け、新潟市部会として第1回の研修を5月11日（土）に新潟市万代市民会館でおこないました。その状況を報告し、今後の予定をこの紙面で会員の皆様にお伝えしたいと思います。

当日は、西潟副支部長、古俣和博氏、佐藤明氏、荒井浩司氏、駒沢幸雄氏、寺尾二三夫氏と私の7名の参加でおこなわれました。研修の前に新潟市部会の事務連絡として、新潟市中央区総務課が、6月22日に管内自主防災会役員を対象に実施する研修会に昨年に引き続き防災士派遣の依頼があったことを伝えました。なお、この研修は、（社）減災・復興支援機構がコーディネーターを担当し実施するものになります。

また、研修の今後の方向については、高岡市が取り組んでいるように、静岡県が作成したHUGを活用した研修を進めたい。そのためには、日本防災士会が開催する研修に参加することと併せて資料を購入し、条件付与カード250枚の検討をおこなうことになりました。静岡県の研修は、支部長推薦1名の枠は確保できますが、残念なことに静岡県に資料の購入の連絡をしたところ、在庫がない状態で6月末の発送になるとのことでしたので、新潟市部会の第2回目の研修会は、現品到着後の7月の開催になりました。8月におこなわれる静岡の研修後その体験をフィードバックして新潟県支部としての素案にしたいと考えています。

防災士の役割は、救急救命法等の指導と共に「防災と対策」を考える住民を増やすことだと考えています。HUGは、DIGと共に新潟県支部の大きな柱になるように検討を進めていく予定です。新潟市部会で作成した素案を県支部で検討し地域の舞台に載せていければと考えています。

○△◇防災フレームワークのススメ◇△○

フレームワークって知っていますか？

フレームワークとは情報分析・問題発見・問題解決、戦略を立案するときを利用する「思考の枠」のことで、物事を考える時その基礎となる規則・構造・考え方・アイデアなどを体系的にまとめたもの（もしくはまとめる事）を表します。

それでは、防災フレームワークとは何のでしょうか？

防災フレームワークは、災害発生時に起こりうる現象を被害が起こる場所・被害の種類・その原因や時間と共に変化する被害の内容、それを防止するためにどのような訓練や対策をしなくてはいけないかなどを体系的にまとめることなのです。

防災フレームワークは、例えば地域のハザードマップ等を参考に①対象災害を定め、②被害を時系列で想定し、③想定被害の事前対策を検討した後、④準備・訓練のスキルを明確にして、自主防災組織などの⑤短・中・長期の防災計画を立案する、となります。対象となる災害は、地震、風水害、土砂災害、火山災害、雪害、感染症などが考えられます。

地震対策の防災フレームワークの一例

被害の種類や対応	事前対策	準備・訓練
家屋の倒壊	耐震性の向上	耐震診断、耐震補強、救出・救助訓練
家具の飛散	家具の固定 ガラス飛散対策	家具等転倒防止啓蒙活動 救出・救助訓練
出火	初期消火	消火訓練
津波	避難	避難訓練
通報	防災無線等の充実	無線などの整備と訓練
情報収集と伝達	伝達網の整備	伝達訓練
安否確認	安否確認網の整備	安否確認訓練
避難誘導	避難誘導	避難誘導訓練
要援護者支援	避難援助	名簿の作成 避難援助の担当者検討
避難所の被災	地域、避難所の 状況確認	行政への情報提供訓練
避難所の運営・管理	マニュアルの整備	マニュアル実地訓練
避難所の給食・給水	備蓄	給水設備の確認 備蓄計画の立案 試食・試飲訓練 反復炊き出し訓練
避難所における 要援護者の生活支援	支援内容の把握	要援護者の支援具体化
余震	応急処置の 資機材備蓄	使用訓練
健康管理	健康二次災害防止	チェックリストの作成
自宅・車避難車	生活課題調査	ライフラインの 無い生活体験
自宅・車避難車の 給食・給水	水、食料、災害時 トイレの備蓄、買い置き	試食・使用訓練
災害ボランティア	ボランティアセンター 運営マニュアルの整備	マニュアル訓練、改善

日本防災士会のホームページでは、様々な項目名ごとに参考とあるインターネット上のサイトを紹介しています。

(<http://bousaisikai.jp/bousai-framework/1index.htm>)